

たか はた いさお
高畑 勲
 な ら よし とも
奈良美智

の来館が決定! ぜひご取材ください

オープングレセプション

2月24日(金)
 13:30～15:30(受付13:00～)

<開館20周年記念 I>
 高畑勲がつくるちひろ展 ようこそ! ちひろの絵のなかへ
 奈良美智がつくる 茂田井武展 夢の旅人

2017年、安曇野ちひろ美術館は開館20周年を迎えます。

<開館20周年記念 I>として、3月1日より開催する

「高畑勲がつくるちひろ展 ようこそ! ちひろの絵のなかへ」では、
 アニメーション映画監督の高畑勲がちひろの魅力を再発見し、
 展覧会を演出します。

また、同時開催の「奈良美智がつくる 茂田井武展 夢の旅人」では、
 現代美術のアーティストとして世界的に活躍する奈良美智が、
 今も“新しい”と感じる茂田井武の作品を選び、展覧会を構成します。

3月1日からの一般公開に先がけ、高畑勲と奈良美智を招き、
 本展のオープングレセプションを行います。

ぜひ、ご取材をお願いいたします。

スケジュール(予定)

- ごあいさつ
 (高畑勲/奈良美智)
- 担当学芸員による
 展覧会のみどころご紹介
- 2017年安曇野ちひろ美術館
 活動予定のご紹介 ほか

※関係者とマスコミのみなさま限定の
 オープングレセプションとなります。
 ※下記申込書にて、事前の取材お申し
 込みをお願いいたします。

切り取らずに送信してください。

オープングレセプション 2月24日(金)
 取材お申し込み書

FAX返信先 0261-62-0774

要事前申し込み
 申し込み〆切 2月15日(水)

御社名

媒体名

ご出席者名(代表者)

ご参加人数 名

ご連絡先 TEL.

展示関連イベント



講演会「高畑勲が語る ちひろの魅力」

アニメーションづくりの第一線で活躍してきた高畑勲。
ちひろの作品から創作のインスピレーションを得ていたという高畑が、
その審美眼を通して、新たなちひろの絵の魅力を語ります。

会場：安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー
参加費：500円(入館料別) 定員：80名(先着順)
申し込み：要事前予約(ちひろ美術館HP、TEL.0261-62-0772、美術館受付にて)

2017年
4月16日(日)
14:00～
15:30

安曇野ちひろ美術館 20周年！ おめでとう20歳！

開館20周年を迎える2017年、美術館と同じ20歳の方は
特別に入館無料です。
※生年月日のわかるものを受付でご提示ください。

開館記念日 4月19日(水)

この日ご来館の先着100名に、非売品ポストカードをプレゼントします。

入館無料デー

日ごろの感謝を込めて、美術館の近くにお住まいのみなさまへ向けて、
入館無料でお楽しみいただけるご優待日を設けました。
お誘いあわせのうえ、ご来館ください。

- 3月5日(日) 松川村民特別優待デー
- 3月26日(日) 長野県民入館無料デー
- 4月23日(日) 池田町・生坂村民入館無料デー
- 5月21日(日) 松本市民入館無料デー
- 6月4日(日) 大町市民入館無料デー
- 6月18日(日) 安曇野市民入館無料デー
- 9月24日(日) 白馬村・小谷村民入館無料デー



3月平日限定 カフェドリンク付き入館券1000円

3月平日限定で、絵本カフェの
ドリンク付き入館券を販売いたします。
春の訪れが待ち遠しいこの季節、心も
体も温まる1杯で、美術館での時間を
ゆったりとお楽しみください。
(通常入館料 大人 800円)



撮影：和田真典

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示のみどころなどをお話します。
日時：毎月第2・4土曜日 14:00～ちひろ展
14:30～茂田井武展
参加費：無料(入館料別) 申し込み：不要(参加自由)

●おはなしの会

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや
素話を、親子でお楽しみください。
日時：毎月第2・4土曜日 11:00～11:30
会場：安曇野ちひろ美術館 絵本の部屋
料金：無料(入館料別) 申し込み：不要(参加自由)



撮影：橋本裕貴

安曇野ちひろ美術館 2017年 展示スケジュール

※11/8より、工事のため冬期休館

会期	春 3/1(水)～5/9(火)	初夏 5/13(土)～7/4(火)	夏 7/8(土)～9/12(火)	秋 9/16(土)～11/7(火)
展示室 1	<開館20周年記念 I> 高畑勲がつくるちひろ展	<開館20周年記念 II> 走る！跳ねる！ ちひろ・子ども百態	<開館20周年記念 III> いわさきちひろの歩み	<開館20周年記念 IV> ちひろと旅する信州
展示室 2	ようこそ！ちひろの絵のなかへ	窓ぎわのトットちゃん ピエゾグラフィ展		窓ぎわのトットちゃん ピエゾグラフィ展
展示室 3	<開館20周年記念 I> ちひろ美術館コレクション 旅する絵本	<開館20周年記念 II> ちひろ美術館コレクション	<開館20周年記念 III> ちひろ美術館コレクション 貼る！コラージュの絵本	<開館20周年記念 IV> ちひろ美術館コレクション よりどりみどり 世界の鳥
展示室 4	<開館20周年記念 I> 奈良美智がつくる 茂田井武展 夢の旅人	子どもの世界・世界の子ども	<開館20周年記念 III> 日本の絵本100年の歩み	<開館20周年記念 IV> 日本デンマーク国交樹立150周年 イブ・スピング・オルセンの絵本展
休館日	3/22 4/12・26 5/10・11・12	6/28 7/5・6・7	7/26 9/13・14・15	9/27 11/8～

安曇野ちひろ美術館

http://www.chihiro.jp/

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 奥原^{くろやなぎ}・畔柳・田邊・入口
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24
TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774
E-mail:apublicity@chihiro.or.jp



<開館20周年記念 I>
高畑勲がつくるちひろ展
ようこそ！ちひろの絵のなかへ

2017年3月1日(水)～5月9日(火)

ちひろさんは、一瞬の愛らしさではなく、
子どもがしっかりと内面をもって懸命に生きている
自立した存在であることを私たちに気づかせ、
見事に子どもの「尊厳」をとらえた稀有な画家です。

たかはた いさお
高畑 勲



1-1, いわさきちひろ 麦わら帽子をかぶったおにた
『おにたのぼうし』(ポプラ社)より 1969年

古今東西の美術や文学に通じ、独自の審美眼でアニメーションづくりの第一線で活躍してきた高畑勲に、深い洞察を与え続けてきた画家のひとりが、いわさきちひろです。

高畑が初めて、ちひろの絵本に出会ったのは今から約50年前のことです。当時、高畑の長女が保育園から家に持ち帰った絵本が『あめのひのおるすばん』でした。詩のような短いことばと水彩のにじみを生かした絵で子どもの心をとらえたちひろの絵本に、心を奪われたといいます。ちひろが新たな絵本表現に意欲的に取り組み始めたとき、高畑はリアルタイムでその作品に出会い、折に触れてちひろの絵本から創作のインスピレーションを得てきました。

本展では、高畑の視点からちひろの絵の魅力を再発見します。今までにない演出でちひろの絵の世界を‘体感’してください。



1-2, いわさきちひろ 窓ガラスに絵をかく少女
『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年



高畑 勲 (1935～)
アニメーション映画監督・当財団評議員

東京大学仏文科卒業。東映動画(現・東映アニメーション)などを経て、1985年、宮崎駿とスタジオジブリ設立。主な監督・演出作品にTVシリーズ「アルプスの少女ハイジ」「母をたずねて三千里」「赤毛のアン」、映画「ジャリン子チエ」「セロ弾きのゴーシュ」「火垂るの墓」「おもひでぼろぼろ」「平成狸合戦ぽんぽこ」「ホーホケキョとなりの山田くん」「柳川掘割物語」「かぐや姫の物語」など。そのほか「王と鳥」など海外アニメーションの日本語版翻訳・監修や『十二世紀のアニメーション』『アニメーション、折りにふれて』など著作多数。

展覧会名	<開館20周年記念 I> 高畑勲がつくるちひろ展 ようこそ！ちひろの絵のなかへ
会期	2017年3月1日(水)～5月9日(火) ○開館時間＝9:00～17:00 (4月29日～5月7日のGW期間は18:00まで開館延長) ○休館日＝3月22日、4月12、26日
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室1・2
料金	大人800円／高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円／ 障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料／視覚障害のある方は無料／年間パスポート2500円
主催	ちひろ美術館

展示会の見どころ 「おにた」に会える！

ちひろの作品のなかであって、主人公おにたの存在感はきわだっています。
けして忘れられない、この世で出会いたい男の子です。

「ちひろが描く子どもの肖像でアニメーション映画がつくれたら、どんなにすごだろう」と語る高畑。ちひろが描いた子どものなかでも、『おにたのぼうし』に出てくる鬼の子「おにた」は特異な存在です。高畑が培ってきたエンターテインメントの手法を使って、「おにた」をクローズアップします。「おにた」が絵本の世界から抜け出し、私たちに会いに来てくれます。

ちひろの絵のなかへ

僕は「リアル」ではなく、「感じが出ている」という言葉が好きです。ちひろさんの絵は正に感じが出ているなあと感心します。ただ上手いだけじゃなく、非常に夢のある色あいでの「大衆性」も合せもっている。絶妙なバランスで人の心を惹きつけています。

高畑が選んだちひろの絵を、初めて、高精細に拡大して再現します。大きくすることで、絵のなかへ入り込むような感覚で、子どもそのものをとらえた形、筆致や絵の具のにじみの重なりなどをお楽しみください。

想像すること『戦火のなかの子どもたち』

僕は9歳のときに、岡山市で空襲に遭っています。人生における一番強烈な体験でした。
『戦火のなかの子どもたち』を見ると、そのときのことがまざまざとよみがえってくるのです。

アニメーション作品『火垂るの墓』（野坂昭如原作1988年公開）を監督するにあたり、高畑は、若い制作スタッフにちひろの絵本『戦火のなかの子どもたち』を見せて、想像力を高めてもらい、迫真の表現を追求しました。高畑のことばとともに絵本の場面から焦土を想像すれば、戦争の虚しさや平和の尊さが響いてきます。

子どもの肖像

ちひろの描く子どもの顔は、あんなに少ない線と色で描かれているにもかかわらず、しばしば、どんな油絵による肖像画よりも雄弁に、深く、その子の内心を語ってくれます。

アニメーション映画づくりのなかで、登場人物の表情や描写を追求してきた高畑は、ちひろが描く子どもは、キャラクターとして単純化されているわけではなく、かといって克明に描き込まれているのでもなく、見る人の想像にゆだねる表現で、個性的でありながら普遍性を獲得していると語ります。高畑が厳選した子どもの肖像を紹介します。

主な出展作品 『あめのひのおるすばん』（至光社）1968年、『おにたのぼうし』（ポプラ社）1969年、『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）1973年 ほか

関連イベント

●講演会「高畑勲が語る ちひろの魅力」

アニメーションづくりの第一線で活躍してきた高畑勲。ちひろの作品から創作のインスピレーションを得ていたという高畑が、その審美眼を通して、新たなちひろの絵の魅力を語ります。

日時：4月16日（日）14：00～15：30 会場：安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

参加費：500円（入館料別） 定員：80名（先着順）

申し込み：要事前予約（ちひろ美術館HP、TEL.0261-62-0772、美術館受付にて）

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示のみどころなどをお話しします。

日時：毎月第2・4土曜日 14：00～14：30 会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1

料金：無料（入館料別） 申し込み：不要（参加自由）



1-3. いわさきちひろ 戸口に立つおにた
『おにたのぼうし』（ポプラ社）より 1969年



1-4. いわさきちひろ 少女と港の風景 1970年



1-5. いわさきちひろ 焼け跡の姉弟
『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）より 1973年



1-6. いわさきちひろ ガーベラを持つ少女
1970年頃



1-7. いわさきちひろ カーテンにかくれる少女
『あめのひのおるすばん』（至光社）より 1968年



<開館20周年記念 I>

奈良美智がつくる

茂田井武展 夢の旅人

2017年3月1日(水)～5月9日(火)

学校で習う美術のつまらなさは、それが自分の生活からかけ離れていたことだ。僕は絵を描いたりしているが、実を言うといわゆる名画よりも生活する中で出会ったもの、たとえば絵本から学ばせてもらったほうが多い。そして僕の好きな日本の絵本作家たちは、どこかしら茂田井武にその源流をみる気がする。果たして僕もそのひとりに違いない。彼の美意識は生活の中に息づき、それゆえ逆説的に崇高だ。彼の絵の中には西洋も東洋もなく、ただ純粋な魂だけがある。



2-1, 茂田井武 画帳「続・白い十字架」より 1931-35年

なら よしとも
奈良 美智



2-2, 茂田井武 白くまとお人形 1947年

戦後の混乱期の子どものおびただしい数の絵を描きながら、日本の絵本の隆盛期を待たずに早逝した茂田井武。その画業は大切に受け継がれ、後に続く多くの画家たちにも影響を与えてきました。茂田井が亡くなった3年後に生まれ、今まさに現代美術のアーティストとして世界的に活躍する奈良美智も、茂田井の絵に心ひかれるひとりです。

本展では、奈良美智が今も「新しい」と感じる茂田井武の作品を選び、展覧会を構成します。「人に見せるための絵よりも、自分との対話のなかで生まれる絵にひかれる」という奈良は、20代の欧州放浪中に描かれた画帳や戦時中の日記、夢から生まれた絵物語、子どもの落書きのある絵など、折々の茂田井の内面が色濃く表れた作品を選んでいきます。奈良美智の視点から、新たな茂田井武の魅力が開かれます。

展覧会名 <開館20周年記念 I>
奈良美智がつくる 茂田井武展 夢の旅人

会期 2017年3月1日(水)～5月9日(火)
○開館時間=9:00～17:00
(4月29日～5月7日のGW期間は18:00まで開館延長)
○休館日=3月22日、4月12、26日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室4

料金 大人800円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/
障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

主催 ちひろ美術館



2-3, 茂田井武 画帳「Parisの破片」より 1930年頃-35年頃

展覧会の見どころ 遠い異国で謳歌する自由。その自由な魂から生まれる絵。

1930年、21歳の春に、茂田井は鞆一つで欧州放浪の旅に出ます。滞在先のパリやジュネーブで、夜な夜な絵日記のように描きためた画帳「Parisの破片」「続・白い十字架」には、茂田井が当時目にした光景や幻影が映し出されています。異国の自由な空気なかでの制作や思索は、奈良にとっても、大切な時間でした。

おじいさんの子どものころの写真をはきだしから見つけたような。

茂田井は子どものころの記憶や、パリでの印象、夢のなかの光景などを、まるで印画紙に焼き付けるように絵にしました。奈良はそうした茂田井の絵から、おじいさんの子どものころの写真をはきだしから見つけたような、ノスタルジーを感じるといいます。

父と子の濃い時間。

狭い画室に貼られていたという童話やおもちゃの絵。「父と子のノート」と題された合作のノート。描き損じの裏に子どもが描いた絵まで、茂田井は大切に手元に残していました。子どもとの濃い時間のなかで生まれたそうした絵を、奈良は愛おしそうに選び出しています。

自分の物語を語る人。

奈良は「自分の物語を語る人にひかれる」といいます。奈良が選ぶ茂田井の絵は、人に見せるための絵よりも、自分との対話のなかで生まれた絵がほとんどです。



2-4, 茂田井武 「夢の絵本」より 1948年

展覧会の見どころ 茂田井 武 Takeshi Motai 1908～1956



1908年、東京日本橋生まれ。1923年生家の旅館が関東大震災で全焼する。中学卒業後、太平洋画会研究所、川端画学校などで絵を学び、アテネ・フランセに通う。1930年シベリア鉄道で渡仏、パリの日本人会で働きながら独学で絵を描き、日々の生活を画帳に描きとめた。1933年に帰国。職を転々とした後、成人向け雑誌「新青年」などに挿し絵を描き、1941年から絵本を手がける。1946年日本童画会入会。戦後日本の復興期に絵本、絵雑誌などの仕事で活躍する。1954年小学館絵画賞受賞。48歳で亡くなるまで、病床で絵を描き続けた。

奈良 美智 Yoshitomo Nara 1959～

1959年、青森県生まれ。1988年、愛知県立芸術大学大学院修了の翌年にドイツに渡り、国立デュッセルドルフ芸術アカデミー修了。その後も、99年までドイツに滞在して制作と活動を行う。2000年に帰国後、日本を拠点に世界中で展覧会を開催する。2001年と2012年に横浜美術館で大規模個展、また2010年にはAsia Society Museum (ニューヨーク) 2015年にはAsia Society Hong Kong Center (香港) にて個展を開催した。絵画を中心にドローイングや彫刻など幅広い表現で、国や文化背景を超えた人々と共振し支持を得る。

主な出展作品 画帳「Parisの破片」 1930年頃-35年頃／画帳「続・白い十字架」 1931-35年／画帳「退屈画帳」 1937年頃-40年／画帳「幼年画集」 1946-47年／絵物語「夢の絵本」 1948年／絵本『セロひきのゴーシュ』（福音館書店） 1956年 ほか

関連イベント ●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示のみどころなどをお話します。

日時：毎月第2・4土曜日 14:30～15:00 会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4 料金：無料(入館料別) 申し込み：不要(参加自由)

図版について 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



2-5, 茂田井武 飾り井戸 画帳「幼年画集」より 1946-47年



2-6, 茂田井武 『セロひきのゴーシュ』(福音館書店)より 1956年



<開館20周年記念 I> ちひろ美術館コレクション 旅する絵本

2017年3月1日(水)～5月9日(火)

絵本発ミステリーツアーへようこそ!

絵本には「旅」をテーマにした作品が多く見られます。本展では、ちひろ美術館コレクションのなかから、知らない土地や異国への憧れ、空想世界への冒険、旅情を誘う風景との出会いなど、旅へのさまざまな想いを描いた作品の数々を紹介します。世界の絵本画家たちが誘う、時空を超えた魅力あふれる旅の世界をお楽しみください。



3-1, マーチン&アリス・プロベンセン 『スティーヴンソンのおかしなふねのたび』より 1987年頃

展覧会名	<開館20周年記念 I> ちひろ美術館コレクション 旅する絵本		
会期	2017年3月1日(水)～5月9日(火) ○開館時間=9:00～17:00 (4月29日～5月7日のGW期間は18:00まで開館延長) ○休館日=3月22日、4月12、26日		
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室3		
料金	大人800円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円 /障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円		
主催	ちひろ美術館	出展作品数	約30点

展覧会の見どころ 1) 時空を超えた旅への誘い

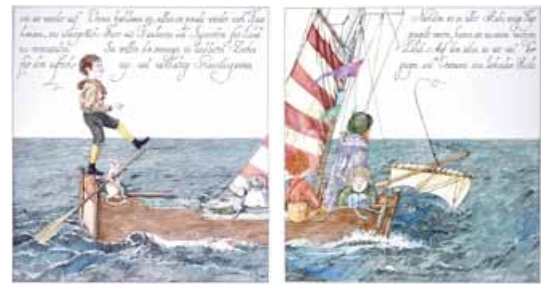
見知らぬ土地やはるかに遠い異国への憧れは、冒険物語やファンタジーを生み出しました。絵本の登場人物たちは、船で大海原を渡り、列車や動物にも乗り、さまざまな場所とときには時代さえも超えて自在に旅をします。世界の絵本画家たちが想像力豊かに描いた、非日常の旅の世界をお楽しみください。

2) 旅から多彩な文化が見えてくる

日常のくらしや記憶と深く結びついた旅もあります。旅とともに日々の営みがあるモンゴルの遊牧生活、地域の足としての身近な列車の旅、風土に根づいた民族衣装や特有の建物……、旅を描いた絵本からは、背景にある世界の多彩な文化が見えてきます。

主な出展作品

マーチン&アリス・プロベンセン 『スティーヴンソンのおかしなふねのたび』より 1987年頃/クラウス・エンヅィカート 『4人の子ども、世界をまわる』より 1990-92年/ポロルマー・パーサンスレン 『ぼくのうちはゲル』(石風社)より 2004年/タチヤーナ・マーヴリナ イワン王子とはいろいろ狼 『ロシアの昔話』(福音館書店)より 1950年/荒井良二 『モンテロッソのピンクの壁』(ほるぶ出版)より 1992年/西村繁男 『がたごとがたごと』(童心社)より 1999年 ほか



3-2, クラウス・エンヅィカート 『4人の子ども、世界をまわる』より 1990-92年



3-3, タチヤーナ・マーヴリナ イワン王子とはいろいろ狼 『ロシアの昔話』(福音館書店)より 1950年



3-4, ジェラルド・マクダーモット 『太陽へとぶ矢』(ほるぶ出版)より 1974年